



文化財ニュース いわき

第 72 号

平成 25 年 12 月 18 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

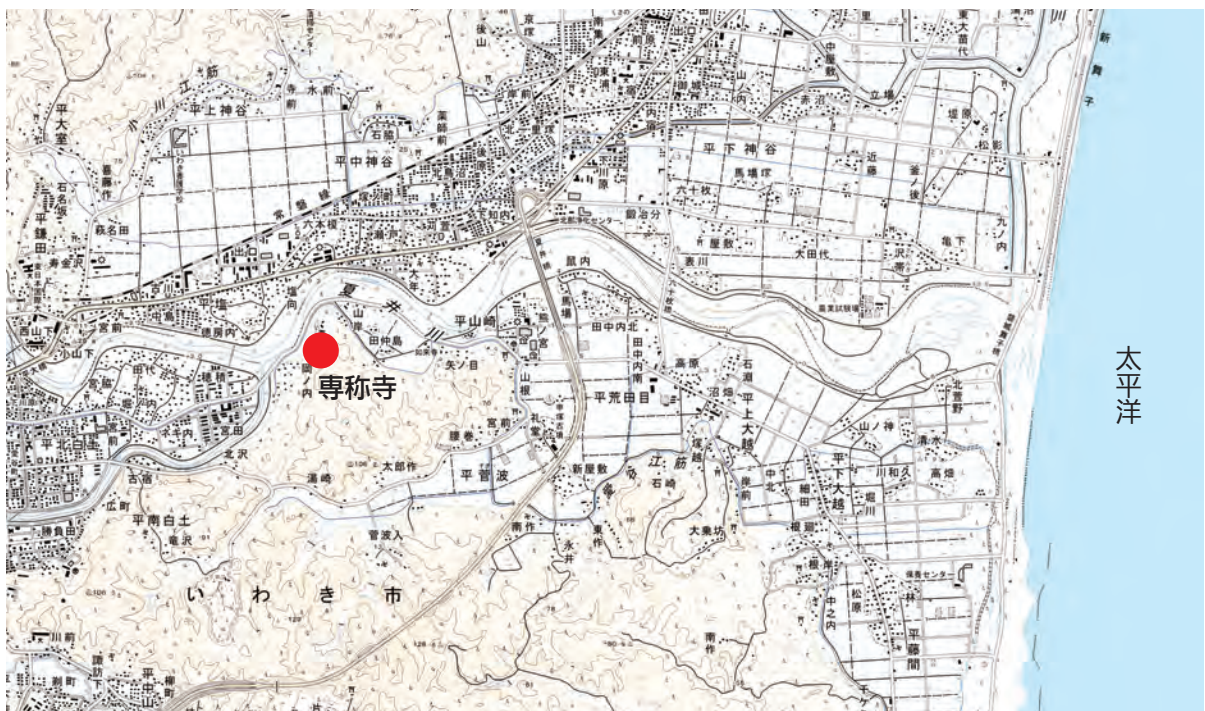
せんしょう じきょういき 専称寺境域(本堂)の発掘調査成果

—夏井川右岸の丘陵先端部に造営された寺院—

【現地説明会 平成25年12月21日(土) 10:00~12:00】

専称寺(梅福山報恩院専称寺)は、福島県いわき市平山崎字梅福山に所在し、夏井川右岸の丘陵先端部に立地しています。平山崎にある如来寺を開山した良山の高弟良就上人により、応永2年(1395)に開かれたお寺です。慶長19年(1614)に火災にあい、寛永年間(1624~1643)に再建されました。その後奥州総本山となり、寛文9年(1669)に再び火災のため焼失しましたが、寛文11年(1671)に本堂を再建、永享年間(1684~1688)までの間に講堂など様々な建物を有する大寺院として復興しました。^{註)}

これまでに、多くの建物が失われてしまいましたが、現在は本堂・庫裡・総門の3棟が残り、それらは国指定重要文化財、鐘楼堂は市有形文化財(建造物)に指定されています。



専称寺境域の位置と周辺の地形(50,000分の1)

とじておきましよう。

註)「浄土宗名越派檀林専称寺史」佐藤孝徳編 1995年



専称寺境域（本堂）調査風景



本堂礎石の様子

礎石の面から1 m以上の盛土を掘り下げると、平坦な黒褐色土層があらわれます。この黒褐色土の面では、古い礎石や礎石の抜き取り痕、土器や陶磁器が集中する地点、焼けた跡あとなどが見つかりました。これらの遺構からは、中・近世の陶磁器やかわらけすや（素焼きの土器）・銭貨せんかなどが出土しました。

専称寺の境内けいだいや梅林を含む周辺は、「専称寺境域」として県指定史跡・名勝となっています。

専称寺では、東日本大震災災害復旧事業に伴う本堂の解体修復工事かいたいしゅうふくこうじが行われ、解体作業が終了したため、平成25年9月から発掘調査を実施してきました。

今回の調査の結果、現在の礎石周辺そせきに土坑どこうや小穴しょうけつが見つかりました。

とじておきましょう。



土器や陶磁器が集中する地点



焼けた跡



礎石と礎石抜き取り痕

土器や陶磁器が集中する地点からは、多量のかわれけ・陶磁器・貝殻などが出土し、^{じちん}地鎮などの^{さいし}祭祀跡と考えられます。

焼けた跡からは、陶磁器片や多量の木炭などが見つかり、これらは、火災の^{こんせき}痕跡と考えられます。また、その周辺からは、礎石の抜き取り痕も見つかっています。



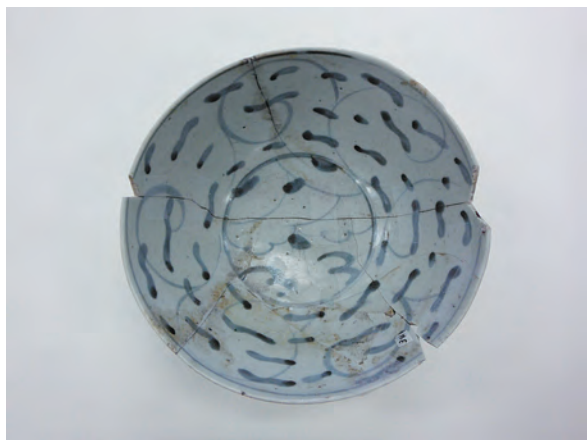
1号土坑



1号土坑から出土した陶器とかわらけ



肥前の大碗が出土した様子



肥前の大碗の内面



かわらけが出土した様子



銭貨が出土した様子

現在の礎石の面で見つかった土坑からは、江戸時代初期から中期の陶器が出土し、その下の火災にあった面では、江戸時代中期の陶磁器やかわらけ、多数の銭貨や釘が出土しました。また、中世のかわらけや中国から輸入された陶磁器なども出土しました。

今回の発掘調査では、火災の跡から出土した陶磁器や土層の堆積状況から、現在の本堂が江戸時代中期に再建されたことが分かりました。専称寺関連の文献にも江戸時代に2度の火災の記録がみられます。